

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里一清水 1F		
所在地	静岡県清水区吉川129-4		
自己評価作成日	平成31年1月19日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp/wamapp1/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=2274202494&SVC=0001096&JN=00&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺の自然環境に恵まれ、施設の2階から富士山を眺める事ができる静かな環境の中にあり公共機関にも恵まれており静岡鉄道の狐ヶ崎駅から徒歩5分のところにある施設です。運営理念である「生き生き生きる」を実現するために入居者様が何を望んでいるのか興味関心をもって関わり合い、ご本人ご家族管理職職員で話し合いその方が望んでいる事をお一人おひとりに合った個別ケアの実践に努めております。食事も入居者様と一緒に作り、楽しく食べて頂くという取り組みを行っています。日々の申し送りで個々の状態を把握しその時々々の状況に応じて話し合い、お一人おひとりに合った出来る事を生かす楽しい介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成30年度の施設目標を「私も主役、みんなで生き生き」とし、①レクリエーションの充実、②美味しい食事提供、③快適な生活、④ストレスのない人間関係、⑤お一人おひとりの好きなこと、こだわりの支援に力を入れています。そもそも平成29年度で「私ってこうなの」として、センター方式のシートを用いて「情報収集しよう」を推進した取組みが、「どんなことが楽しみなんだろう?」と拡がり、「その人ができること」を掘り下げた、30年の目標であることから、職員にとっても自然な流れであり、利用者本人のBPSDが軽減する成果を実感することは仕事への充足感を味わうことにつながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」の法人理念に基づき、今年度の目標は「私も主役、みんなで生き生き」～入居者様の生活の全ての事を幸せと喜びにする～ に取り組み、日々楽しんで生活して頂けるように工夫している。	「認知症の人は物事を忘れても喜怒哀楽の感情は残る」から「いい気分でいられる」よう支援したいとの想いを一つにして、職員全員で決めた施設目標「私も主役、みんなで生き生き」は、法人理念「生き生き生きる」をベースにしたもので、目標の達成率が即ち理念実現に成っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	納涼祭の時は自治会へ依頼し地域の皆様がテーブルや椅子の貸し出しや運搬まで協力して下さる。吉川八幡神宮祭の福引券を頂き、毎年参加しています。どんど焼きでは餅つきをしたり地域の皆様と楽しんでます。散歩の時も良く挨拶しています。	10年以上前の退去者の家族の来訪や、ボランティア(6団体)など、人の往来は盛んです。特に有度保育園の園児との交流は3年続き、年に1回なものの利用者にとっては至福の時間として、歌や体操の披露のほか、利用者の間に入って肩たたきや指遊びに興じて愉しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方の受け入れを盛り込んだ行事企画などを行い認知症の理解を深めていけるように努めています。1年間で5団体のボランティアの方の受け入れをしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域包括支援センター、行政の方の参加もあり隔月、行事報告をスライドショーにしてみ頂き、喜ばれています。更に意見や情報を頂いて運営に取り入れるようにしています。	メンバーは現状家族が中心で、7名という回もあります。日頃の活動を動画で紹介したりとごく普通の進行ですが、家族同士が仲良く、終了後も話に花が咲いています。また災害対策への不安があがった折には避難訓練へメンバーも参加してもらえ、有意義な展開を果たしています。	地域包括支援センターをはじめ家族以外の出席率が低いため、是正を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に状況報告を行い、状況に応じて相談、連絡を行い連携に努めています。有度包括支援センターで有度グループホーム連絡会にも必ず参加している。今年度は有度地区認知症高齢者捜索模擬訓練にもサポーターとして参加しました。	介護保険課の運営推進会議出席は毎回ではないものの、連携が途絶えないよう案内と議事録は必ず郵送しています。介護相談員は毎月来所していただき、事業所でも意見交換会に出席しています。本年度は、有度地区認知症高齢者捜索模擬訓練にサポーターとして参加しています。	現在のボランティアの中にもポイントが欲しい人もいますので、シニアサポーター受入事業所登録を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。身体も心も縛り付けてしまう不適切な声掛けをなくすために管理職が指導し、職員も自ら意識しています。身体拘束廃止委員会を2か月ごと開催し、毎年身体拘束廃止フォーラムにも参加しております。玄関は夜間以外施錠していません。	本年の法改正に伴い、マニュアル・指針を整備のうえ、身体拘束廃止委員会を2ヶ月ごとに開催(発布内容に準じて運営推進会議内で別時間を設けて実施)しています。緊急やむを得ない場合の三要件については該当者もなく、理念推進に依って心配される言動の職員もいません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回身体拘束、虐待について研修を行っています。職員同士お互いに不適切な対応を注意し合える人間関係を目指し、気になる事はなんでも管理職に報告があります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば行政や地域包括センターと相談しながら活用できるよう支援に努めています。成年後見制度を利用している方がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、書面にて入居者様やご家族に十分説明を行い不明点は具体例を挙げて理解して頂いたうえで契約を結ぶように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族が意見を述べやすいように特に運営推進会議時とケアプラン説明時に聞き取りしている。また頂いた要望は誰からか特定できないように伝え、職員全員が共有し申し送り時や定例会で要望に近づけるように努めています。	運営推進会議の主だったメンバーは終了後1時間ほど井戸端会議的に残っていて、横の連携がとれていることが覗えます。また面会も2日に一度の人もいて、週に1回は来るという人が3分の1程度、少なくとも2ヶ月に1度は必ず職員と会話をもっていて、やりとりがスムーズです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームは「職員の頑張りで成り立っている」という事をたびたび伝え仕事にやりがいと自信が持てるようにしています。職員がやりたいことは危険がなければすべて実現している。この一年で1階2階合わせ50回以上の企画行事を行っています。	年間計画で担当月を決めて、職員の主体性や責任感を養っています。予算に関わらず自ら立案した企画を利用者に喜んでもらった達成感から、皆意欲的に継続できており、それは開催回数にも如実に現れていて、管理者も職員の頑張りを日々称えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に応じて無理なく勤められるように対応しております。自己評価と面談が年2回あり振り返りができる機会を設け、職員表彰があり向上心を持って働けるように努めています。キャリアパス制度があり法人が求める能力に応じた給与体制があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒職員が数名いるため職員全員で育てていくことにより改めて自己を振り返らせることでお互いが成長していけるよう指導を行っています。現在、離職率も非常に低いです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	有度グループホーム連絡会などの会合に参加し情報交換してサービスの向上に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望、困っている事、不安に感じていること等々アセスメントして入居後も言葉の裏側を見過ごさないように傾聴し困っていることはその都度対応するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と現在の状況や困っていること不安に感じている事、要望を伺い、どのような対応・支援が適しているのか入居前に十分話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の面談でアセスメントを行い、ご本人に必要な支援、ご家族に必要な支援を見極めてグループホームでの生活が適しているのか話し合い安心して入居できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができること興味がある事を日々探しています。お一人おひとりに役割を持っていただき生きがいを作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に面会に来られるよう挨拶、近況報告を居場所づくりをしている。ご家族からの提案等を取り入れて外出の支援等に取り組んでいます。また状態変化等必要に応じてご連絡しています。ご家族に企画行事を手伝って頂くこともあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方だけでなく知人の方や馴染みの方にも気軽に来て頂けるよう努め、携帯電話を持たれている方がいます。ご家族に電話や面会に来てほしい希望もすぐに対応しています。	入居10年以上経つも、未だに月に3回社交ダンス教室に通っている人がいて、「今日は褒められたよ」と上機嫌の日は職員も嬉しくなります。毎晩ノンアルコールビールで晩酌をしている人、お人形作りが趣味だった人は今でも可愛がって、人形のために縫い物をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりの出来る事を把握し職員が間に入りユーモアを交え入居者同士の関係性を良好に維持していけるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了したご家族がボランティアで見えています。入居の相談があったり必要に応じて相談・支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初より今までの人生の情報を集め、希望を把握し対応している。認知所が高度になり言葉が出ずらくなっても表情で気持ちを判断したり入居されてから今までの情報を元に対応を決めています。	入居後多くの情報を集めることで本人が望む生活が送れるかが決まるとして、センター方式を利用し1年間記録をとっています。丁子屋のところが大好きな101歳の利用者は座敷が難儀で長いこと断念していたところ、職員の機転でテーブル席が用意され夢が叶っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や面会者に伺い情報収集を行っています。情報は職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日状態が変化するため、毎朝の申し送りで確実に把握し対応をすぐに考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会時にカンファレンスを行い、ご家族の要望も取り入れ主治医と相談しながら介護計画の作成に努めています。毎朝の申し送りの情報があるためカンファレンスでも意見が多く出て今後の対応に役立てています。	日課表に気づきを分かり易く記述するとともに、毎月の定例会、毎朝の申し送りにてカンファレンスおこない職員意見を集約しています。また「現場が実践できる介護計画である」ことに重きを置き、「現実的」で「本人のためになる」「統一されたケア」を盛り込むようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ごとに経過記録に時系列で記録し情報を共有しながら実践や見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から入居者様の声を聴き、またご家族様からの意見に耳を傾け思いや要望に添えるよう個別のケアの提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの理髪店の訪問散髪、ボランティアの受け入れなど他者との触れ合いが楽しめるよう支援に努めています。有度東保育園の園児との交流は非常に喜ばれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望を聞き対応しております。また定期的にかかりつけの医に受診し、ご家族へ報告、相談を随時行い安心して生活出来るように支援に努めています。	在宅の頃からのかかりつけ医から協力医に17名が変更しています。医療記録は『経過記録』の支援経過欄に記載し、家族への結果報告は電話でおこなっています(急を要さないものは後日面会時で)。協力医の看護師が週1回来所しており、健康管理につなげています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回かかりつけ医の看護師の訪問があります。状態報告、バイタルチェックを行い変化のある方を専門的に見て頂き、報告、相談し主治医と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、ご家族、病院関係者と連携をとり生活情報を提供しています。スムーズに退院できるように連絡をとり、主治医の病状説明にも同席するように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化に係る指針を説明して同意を得ています。身体状態の低下が懸念される入居者様は希望に応じて医師の指示の下、家族も交え終末期の受け入れ態勢を整えて支援に取り組んでいます。	「協力医が24時間対応ではない」「看取りが想定された時点で往診専門医に替えることもできる」等家族には説明して了解を得ています。本年度も1名お見送りし、毎日面会に来てくれた家族が職員に感謝の言葉を伝えてくださり、管理者はじめ8名程が通夜、葬儀に参列しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時に基礎研修があり全職員が研修を受けている。また定例会を活用して毎月、勉強会を開催しており定期的に身につくように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練と研修で指導しています。全職員が消防に通報訓練を行い防災訓練にご家族も参加しています。	1回は消防署の立合いを求め、法定訓練の回数を超えて年3回実施しています。避難誘導は日頃から外気浴が盛んなため難なくこなせましたが、通報内容がしどろもどろだったり、自力避難困難者がすぐに出てこなかったなど、できないことが判ったことが財産となるに至っています。	地域の防災訓練に参加して、連携を進めることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇はかなり改善されてきている。職員同士お互いに不適切な対応を注意し合える人間関係を目指している。入浴、排泄もプライバシーに配慮している。	不適切な発言が相手に与える不快感を定例会で指摘したり、法人の規定より2回増やして年4回の面談として密に指導できています。「ドアを閉める」「大きな声で排泄の話をしてはいけない」等は常から呼びかけるとともに、接遇研修も実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望をご本人様、ご家族に伺い対応している。入浴後の服選び、おやつ、外食時の料理など選んで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの状態や生活パターンに合わせて、その日の過ごし方を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれへの関心を持てるような心配り、声掛けをするよう心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や片付けをしていただいています。献立はあらかじめ決められていますが一週間に1回以上お楽しみメニューの日がありリクエストを聞いたり職員の得意料理を提供したりしている。また、年間7、8回外食へ出掛け好きなものを注文して頂いています。	施設目標の取組内容に『美味しい食事提供』とあるだけに力も入り、お好みメニューの日を月に7日設け、リクエストに応じています。職員の得意料理にはうどん打ち、握り寿司もあり、出汁にこだわる人もいて、総じて研究熱心です。また7～9月以外は毎月刺身の日があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表、水分摂取表を活用し適量の見極めと変化に早く気づき、お一人おひとりに合った食事の提供ができるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアをご本人に行って頂いた後に確認し必要に応じて支援させてもらい清潔保持、肺炎防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行いトイレでの排泄と失敗による不快の軽減に努めています。	病院では転倒のリスクからオムツとなっていました。退院後は事業所でオムツ外しに取組み、定時トイレ誘導から現在失敗が半分くらいになってきて、向上しています。また時間をおかず繰り返し訴える人もいますが、「さっき行ったよ」と言わずに何度でも付き添うようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供しています。また、日々体操を行い便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの入浴剤を選んでいただいたり、突発的に入浴を希望されたときにも応じるよう努めています。	週2~3回をめやすとし「毎日入りたい」人も希望が通っており、また入浴剤も複数用意して「選んでもらう」ことも留意しています。施設目標に準じての取組内容に『快適な生活→最高なお風呂』とあり、順番や時間帯、入浴剤、シャンプー等において「要望に応える」ことを実現させています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの尊重や状態を把握し、室温湿度物音に配慮し心地よい安眠につけるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は個人ファイルに綴じ込み変更等があった時は申し送りの他、職員それぞれが確認出来るようにしています。服薬ミスがないように複数でチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを把握し、日常生活の中での役割を通して満足感を得られるように支援しています。また興味のあることに応えられるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月に1回以上企画を立て皆様での外出を毎月行っています。個別でドーナツショップ、生活用品の買い物なども出掛けています。お天気の良い日は近隣の神社まで散歩に出掛けるようにしています。	冬季でも温かい日は周辺を散策、無風であれば駐車場に出て歌集をみながらみんなで歌っています。外食は毎月で、トンカツ、蕎麦、寿司、鰻等、年中行事では初詣、花見、いちご狩りのほか、うなぎパイファクトリー、サファリパーク、掛川花鳥園など少し足を延ばしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現金は預かっていないが、買い物や要望があるときは一緒に買い物に行き楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、希望される方には電話や手紙のやり取りの支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮したうえで絵や装飾品やお花で季節感を感じられるように努めています。またレクリエーションとして季節に感じられる展示物を手作りしています。	利用者と職員と一緒に制作した桜、菜の花が壁面を飾り、本物の生花は職員が自宅から持ち込み、常にテーブルには彩があります。また毎日、床だけでなく除菌水で手すりや棚の上なども小まめに拭き、清潔を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペース、1階のテラスを使い食卓とは別のスペースでくつろげるように努めています。ご自分のペースで居室で休まれる方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、使い慣れた品や、思い入れのある馴染みのものを置き居心地のよい場所になれるよう工夫しています。	食事中にも献立などをメモし続けている人の居室には沢山のメモ帳があります。テレビ、冷蔵庫、ラジカセ、携帯とともに自宅から持ち込んだCDが山積みになっている部屋には好きな昭和歌謡と麦茶のパックがあり、麦茶は自身で作って毎日愛飲しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のできることできないことに応じて最小限の援助で生活が送れるよう支援に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里一清水 2F		
所在地	静岡県清水区吉川129-4		
自己評価作成日	平成31年1月19日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp/wamapp1/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=2274202494&SVC=0001096&JN=00&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺の自然環境に恵まれ、施設の2階から富士山を眺める事ができる静かな環境の中にあり公共機関にも恵まれており静岡鉄道の狐ヶ崎駅から徒歩5分のところにある施設です。運営理念である「生き生き生きる」を実現するために入居者様が何を望んでいるのか興味関心をもって関り合い、ご本人ご家族管理職職員で話し合いその方が望んでいる事をお一人おひとりに合った個別ケアの実践に努めております。食事も入居者様と一緒に作り、楽しく食べて頂くという取り組みを行っています。日々の申し送りで個々の状態を把握しその時々々の状況に応じて話し合い、お一人おひとりに合った出来る事を生かす楽しい介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成30年度の施設目標を「私も主役、みんなで生き生き」とし、①レクリエーションの充実、②美味しい食事提供、③快適な生活、④ストレスのない人間関係、⑤お一人おひとりの好きなこと、こだわりの支援に力を入れています。そもそも平成29年度で「私ってこうなの」として、センター方式のシートを用いて「情報収集しよう」を推進した取組みが、「どんなことが楽しみなんだろう?」と拡がり、「その人ができること」を掘り下げた、30年の目標であることから、職員にとっても自然な流れであり、利用者本人のBPSDが軽減する成果を実感することは仕事への充足感を味わうことにつながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」の法人理念に基づき、今年度の目標は「私も主役、みんなで生き生き」～入居者様の生活の全ての事を幸せと喜びにする～ に取り組み、日々楽しんで生活して頂けるように工夫している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭の時は自治会へ依頼し地域の皆様がテーブルや椅子の貸し出しや運搬まで協力して下さる。吉川八幡神宮祭の福引券を頂き、毎年参加しています。どんど焼きでは餅つきをしたり地域の皆様と楽しんでます。散歩の時も良く挨拶しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方の受け入れを盛り込んだ行事企画などを行い認知症の理解を深めていけるように努めています。1年間で5団体のボランティアの方の受け入れをしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域包括支援センター、行政の方の参加もあり隔月、行事報告をスライドショーにしてみ頂き、喜ばれています。更に意見や情報を頂いて運営に取り入れるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に状況報告を行い、状況に応じて相談、連絡を行い連携に努めています。有度包括支援センターで有度グループホーム連絡会にも必ず参加している。今年度は有度地区認知症高齢者捜索模擬訓練にもサポーターとして参加しました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。身体も心も縛り付けてしまう不適切な声掛けをなくすために管理職が指導し、職員も自ら意識しています。身体拘束廃止委員会を2か月ごと開催し、毎年身体拘束廃止フォーラムにも参加しております。玄関は夜間以外施錠していません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回身体拘束、虐待について研修を行っています。職員同士お互いに不適切な対応を注意し合える人間関係を目指し、気になる事はなんでも管理職に報告があります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば行政や地域包括センターと相談しながら活用できるよう支援に努めています。成年後見制度を利用している方がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、書面にて入居者様やご家族に十分説明を行い不明点は具体例を挙げて理解して頂いたうえで契約を結ぶように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族が意見を述べやすいように特に運営推進会議時とケアプラン説明時に聞き取りしている。また頂いた要望は誰からか特定できないように伝え、職員全員が共有し申し送り時や定例会で要望に近づけるように努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームは「職員の頑張りで成り立っている」という事をたびたび伝え仕事にやりがいと自信が持てるようにしています。職員がやりたいことは危険がなければすべて実現している。この一年で1階2階合わせ50回以上の企画行事を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に応じて無理なく勤められるように対応しております。自己評価と面談が年2回あり振り返りができる機会を設け、職員表彰があり向上心を持って働けるように努めています。キャリアパス制度があり法人が求める能力に応じた給与体制があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒職員が数名いるため職員全員で育てていくことにより改めて自己を振り返らせることでお互いが成長していけるよう指導を行っています。現在、離職率も非常に低いです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	有度グループホーム連絡会などの会合に参加し情報交換してサービスの向上に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望、困っている事、不安に感じていること等々アセスメントして入居後も言葉の裏側を見過ごさないように傾聴し困っていることはその都度対応するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と現在の状況や困っていること不安に感じている事、要望を伺い、どのような対応・支援が適しているのか入居前に十分話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の面談でアセスメントを行い、ご本人に必要な支援、ご家族に必要な支援を見極めてグループホームでの生活が適しているのか話し合い安心して入居できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができること興味がある事を日々探しています。お一人おひとりに役割を持っていただき生きがいを作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に面会に来られるよう挨拶、近況報告を居場所づくりをしている。ご家族からの提案等を取り入れて外出の支援等に取り組んでいます。また状態変化等必要に応じてご連絡しています。ご家族に企画行事を手伝って頂くこともあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方だけでなく知人の方や馴染みの方にも気軽に来て頂けるよう努め、携帯電話を持たれている方がいます。ご家族に電話や面会に来てほしい希望もすぐに対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりの出来る事を把握し職員が間に入りユーモアを交え入居者同士の関係性を良好に維持していけるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了したご家族がボランティアで見えています。入居の相談があったり必要に応じて相談・支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初より今までの人生の情報を集め、希望を把握し対応している。認知所が高度になり言葉が出ずらくなっても表情で気持ちを判断したり入居されてから今までの情報を元に対応を決めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や面会者に伺い情報収集を行っています。情報は職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日状態が変化するため、毎朝の申し送りで確実に把握し対応をすぐに考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会時にカンファレンスを行い、ご家族の要望も取り入れ主治医と相談しながら介護計画の作成に努めています。毎朝の申し送りの情報があるためカンファレンスでも意見が多く出て今後の対応に役立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ごとに経過記録に時系列で記録し情報を共有しながら実践や見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から入居者様の声を聴き、またご家族様からの意見に耳を傾け思いや要望に添えるよう個別のケアの提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの理髪店の訪問散髪、ボランティアの受け入れなど他者との触れ合いが楽しめるよう支援に努めています。有度東保育園の園児との交流は非常に喜ばれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望を聞き対応しております。また定期的にかかりつけの医に受診し、ご家族へ報告、相談を随時行い安心して生活出来るように支援に努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回かかりつけ医の看護師の訪問があります。状態報告、バイタルチェックを行い変化のある方を専門的に見て頂き、報告、相談し主治医と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、ご家族、病院関係者と連携をとり生活情報を提供しています。スムーズに退院できるように連絡をとり、主治医の病状説明にも同席するように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化に係る指針を説明して同意を得ています。身体状態の低下が懸念される入居者様は希望に応じて医師の指示の下、家族も交え終末期の受け入れ態勢を整えて支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時に基礎研修があり全職員が研修を受けている。また定例会を活用して毎月、勉強会を開催しており定期的に身につくように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練と研修で指導しています。全職員が消防に通報訓練を行い防災訓練にご家族も参加しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇はかなり改善されてきている。職員同士お互いに不適切な対応を注意し合える人間関係を目指している。入浴、排泄もプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望をご本人様、ご家族に伺い対応している。入浴後の服選び、おやつ、外食時の料理など選んで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの状態や生活パターンに合わせて、その日の過ごし方を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれへの関心を持てるような心配り、声掛けをするよう心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や片付けをしていただいています。献立はあらかじめ決められていますが一週間に1回以上お楽しみメニューの日がありリクエストを聞いたり職員の得意料理を提供したりしている。また、年間7、8回外食へ出掛け好きなものを注文して頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表、水分摂取表を活用し適量の見極めと変化に早く気づき、お一人おひとりに合った食事の提供ができるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアをご本人に行って頂いた後に確認し必要に応じて支援させてもらい清潔保持、肺炎防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行いトイレでの排泄と失敗による不快の軽減に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供しています。また、日々体操を行い便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの入浴剤を選んでいただいたり、突発的に入浴を希望されたときにも応じるよう努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの尊重や状態を把握し、室温湿度物音に配慮し心地よい安眠につけるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は個人ファイルに綴じ込み変更等があった時は申し送りの他、職員それぞれが確認出来るようにしています。服薬ミスがないように複数でチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを把握し、日常生活の中での役割を通して満足感を得られるように支援しています。また興味のあることに応えられるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回以上企画を立て皆様での外出を毎月行っています。個別でドーナツショップ、生活用品の買い物なども出掛けています。お天気の良い日は近隣の神社まで散歩に出掛けるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現金は預かっていないが、買い物の要望があるときは一緒に買い物に行き楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、希望される方には電話や手紙のやり取りの支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮したうえで絵や装飾品やお花で季節感を感じられるように努めています。またレクリエーションとして季節に感じられる展示物を手作りしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペース、1階のテラスを使い食卓とは別のスペースでくつろげるように努めています。ご自分のペースで居室で休まれる方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、使い慣れた品や、思い入れのある馴染みのものを置き居心地のよい場所になれるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のできることできないことに応じて最小限の援助で生活が送れるよう支援に努めています。		